

2015年10月

前立腺癌健診（PSA 健診）

日本人の2人に1人が、一生涯のあいだで癌（がん）に罹患する（かかる）と言われて久しいと思います。国立がんセンターが発表している統計によりますと、2011年では、男性は、胃癌、前立腺癌、肺癌、大腸癌の順に罹患数（新たに診断された癌の患者数）が多く、女性の場合、乳癌、大腸癌、胃癌、肺癌の順になっています。一生涯で癌に罹患する確率は、男性では、胃癌が11%、次いで前立腺癌と肺癌がともに10%で、女性では乳癌が9%、大腸癌が7%となっています。

一方、国立がんセンターが発表している統計の中に「2015年がん統計予測」というものがあります。日本では、癌の罹患数のデータが4～5年遅れて公表されるため、現時点での癌の統計を予測する試みがなされているのです。これによりますと2015年の「予測がん罹患数」は、男性では前立腺癌がトップに躍り出てきています。

確かに、私たち泌尿器科医も日々の診療の中で、前立腺癌の患者さんが増えてきていることを実感しています。10人に1人が前立腺癌にかかる時代になったのですが、診断される前立腺癌が進行癌で、診断時にすでに癌が転移している患者さんもいらっしゃいます。転移している場合には根治的な治療が出来ませんので、致命的になる事も少なからずあり、早期発見が必要であることを痛感します。

前立腺癌のスクリーニング検査には PSA（前立腺抗原）というものがあり、採血をすると PSA の値がわかります。基準値は 4 ng/ml 未満とされ、4 ng/ml 以上が異常値すなわち「癌の可能性あり」となります。PSA は前立腺癌に特異的ですので、他の癌で上昇することはありません。一方、PSA は前立腺肥大症や前立腺炎でも上昇することがありますので、まずは泌尿器科医の診察を受けることが必要です。また、男性型脱毛症の治療薬の中には、内服により PSA 値を下げるものもあり、内服している方は前立腺癌の診断には注意が必要です。PSA 検査は前立腺癌の早期発見のために重要な検査です。

現在、わが国では多くの市町村が PSA 検査を住民健診で行っています。PSA 検査の住民健診導入前後で比較しますと、導入後は、明らかに見つかった癌が転移癌（進行した癌）である比率が下がりました。また、スウェーデンのヨーテボリ市の住民を対象とした調査では、50～64歳の住民約20,000人を対象に健診群と非健診群に無作為に分け、10年間経過を観察したところ、検診したグループでは検診しなかったグループに比べ進行癌の罹患率が49%低下していた事がわかりました。引き続き更に4年間経過を観察したところ（調査

開始から 14 年)、健診群では非健診群に比べ、前立腺癌による死亡率が 44%低下していました。

有名な調査結果を紹介しましたが、他にも、PSA 健診を基盤とした前立腺癌健診の実施により、前立腺癌による死亡率が低下したことを証明した大規模調査が報告されています。日本でも前立腺癌が男性の癌の中でトップに躍り出た現況では、住民健診で PSA 検査を行う意義は大きいと思います。

(川嶋秀紀)



高野山